59 宇都宮宿～徳次郎宿

栃木県宇都宮市

松原～戸祭

（歩行距離 1765m 22分）

歩く地図でたどる日光街道
http://nikko-kaido.jp/
JZE00512@nifty.ne.jp

④戸祭の地名の由来

延喜式や倭名類聚抄には河内郡の郷名としてその名は無く、初出が宇都宮氏時代であることから、平安時代後期以降、室町時代中期までに一般化した地名と考えられている。近年では戸祭の地名が先行し、戸祭氏は地名に順じた名乗りと考えられている。

1. 宇都宮氏（ないし源義朝、藤原秀郷）が宇都宮城築城に際し、この地で民戸を祭り繁栄を祈ったことによるというもの。
2. 宇都宮氏の血縁者である戸祭高定が城を築いた地（祥雲寺の西側）であることに拠るもの。
3. 土を祭る「土祭」が戸祭に転訛したもの。
4. トマは「土場（泥地）」で、ツリは「連（連続）」、すなわち「泥地が連なった土地」の意味で戸祭となったという諸説があります。

「民居もむかしは右のかた大日権現山の麓にありしが、日光街道次第にひらけしにより、人民往還の左右に居を移し、今のごとくに村落となりしといふ」（日光道中略記）

③陸軍第144師団司令部跡

明治時代、戸祭地区（当時は国本村大字戸祭）には旧日本陸軍の第十四師団が駐屯し、太平洋戦争後にその跡地は公共施設として転用された。このため戸祭地区には公共施設が多い。栃木県体育館（体育館本館、別館、プール館、武道館、弓道場、管理棟）や国立栃木病院は第十四師団練兵場および師団司令部の跡地に開かれた施設であり、激化する空襲を避け同司令部が移駐する予定だった地下壕のあった八幡山には八幡山公園や宇都宮競輪場などが開かれた。

宝の木

②宝の木

国立栃木病院の守衛所横に宝の木がある。和名は「児の手柏（コノテカシワ）」、樹齢450年以上と推定されてる。この地域の「宝木（たからぎ）」の地名の由来となったという。

論語「歳寒くして、然る後に松柏（しょうはく）の凋（しぼ）むに後（おく）るるを知る。」松柏とは松と児の手柏のこと。

薬師如来

土蔵の家

上戸祭交差点

上戸祭まで道の両側に松が植えられていた。

coffee time

参拝

神社や寺院に行って神仏を拝むことで、祈願者本人に代わって参拝することを代参という。祈願した神社や寺院に参詣せずその方角に向かって参拝することを遙拝（ようはい）という。同様の言葉に「参詣（さんけい）」があるが、参拝は拝むことに主眼があるのに対し、参詣は寺社に詣でることに主眼がある。ただし、寺社に参拝するためにはそこへ詣でることになるので、一般には両者は同義の言葉とみなされている。観光や学校などによる社会科見学など、宗教的意味合いの薄いものについて「参詣」と言い分けることもある。

境内

境の目安として鳥居、注連縄、門、石、岩、池、川、木などの結界の標（しるし）があります。この結界ごとにそこを守護する神が居られます。

特に鳥居や神門を通るときには正中（真中）をさけ会釈して通らしていただきます。最初の結界（鳥居）では祓い言葉を唱えたり、「お参りにまいりました、お祓いの上お通しください」という意味を申し上げて通していただきます。

多くの神社には水を引いて橋を造りそこを通ってお参りするようになっていたり、小川や堀よりも小さな溝程度のものであってもそれを利用して一つの境界が形成されております。これは境界を越えて汚れ（けがれ）が持ち込まれないように、そこを通過することによってお祓いがなされるようになっております。

coffee time

手水舎

実際に参拝する前に、本来は精進潔斎や祓いをしなければならないところですが、現代ではなかなかそうはいきません。代わりに参道の脇にある手水舎（てみずや）という場所で、身を清めます。手水舎には、水が溜めてあり、柄杓が用意されています。そこでの具体的な作法は、こうです。

一、右手で柄杓を取って、水を汲み、それをかけて左手を清めます。
二、次に、左手に柄杓を持ちかえて、右手を清めます。
三、再び柄杓を右手に持ちかえて、左の手のひらに水を受け、その水を口にいれてすすぎます。
四、すすぎ終わったら、水をもう１度左手に流します
五、使った柄杓を立てて、柄の部分に水を流してすすぎ、元の位置に戻します。この時、直接柄杓に口をつけてはいけません。多くの人が使うものですから当然です。

松原３丁目の交差点で119号線に合流する。交通量が多くなる。

①勝善神の碑

『おおひらの野仏』（中島昭／著）

「勝善は正しくは蒼前（または聡〔馬偏に前〕）で、つまり葦毛で四本の足の膝から下が白い馬のことをさし、葦毛の馬は七聡八白といい八才になると白馬になると信じられている。

従って東北地方では「ショウデンサマ」と呼び、蒼前のような名馬の誕生を祈って祭った信仰である。

つまり、普通の馬頭観音信仰が馬の安全や健康を祈ったり、死馬の冥福を祈ったりするものであるのに対して、勝善神は、主として馬産地において名馬の誕生を祈願する意味の強い信仰であるといえよう。

もちろん、勝善もショウデンも蒼前＝〔ソウゼン〕がなまったものである。」

勝善神の碑

松原三丁目交差点

拝礼

ご神前に進み、参拝者がお参りする拝殿の屋根のあるところを向拝と呼びその多くは賽銭箱があり鈴が下がっています。お賽銭を入れ鈴を鳴らしたらここでも正中を避け、左右のどちらかに下がってお祈りします。まず、一礼をしてお祈りし最後に二礼二拍手一礼するのが一般的です。お祈りの心得としては、心中（無言）で結構ですから、住所氏名を名乗り今よりお祈りさせていただく旨を申し上げます。そして、常日頃の御守護この世に命あることを感謝申し上げ、他にお祈りしたい事があれば申し添えます。心の清浄を最も大切にしたいときです、家から出てお参りに来た全ての過程が心を浄めるためのものです。心を浄めればお祈りは自ずからかなうものであります。